



うねびみなみ

橿原市立畝傍南小学校 ☎ (27)1507 unebiminami@kashiharacity.ed.jp

白菜の まぶしき白を 裂きにけり 柴田 艶子



二学期もいよいよ終業式となりました。真夏から冬へと気候は大きく変わり、学校行事や学習内容も盛りだくさんでしたが、二学期後半の「マラソン大会」や「人権作文発表会」で、いつもと違う表情で頑張ったり、考えたり、意見を述べる児童の様子を見て、また、新しい発見がありました。言わずと知れたことではありますが、一生懸命にやりとげる姿は大変美しく、「よく最後まで走った。」「よくこのような思いを作文に表現した。」など、子どもたちはとても立派で、ほめることがいっぱいでした。また、四日間の個人懇談では、お忙しいところご都合をつけていただき有難うございました。担任とお子さまについてお話がしっかりとできましたでしょうか。学級の様子や友だちのこと、また、本人の心の成長も含めて児童を取り巻く状況は日々刻々と変化していきます。「個人懇談の時には話ができなかったけれど・・・」といった内容がありましたら、いつでもお話をくださいますようお願いいたします。

人権作文発表会の題名をご紹介します。内容についてはお子様にお聞きください。作文を発表する児童は立派ですが、しっかりと聴いて意見や感想を述べる児童の姿も「さすが!」といった感じでした。低学年の部は「かぞくのこと」「校ちょう先生のーこと」「いもうと」「かぞく」「『遊ば。』とさそいたい」「スペイン人のチョニー」高学年の部は「気遣い一つ」「性別の平等ってなに?」「ありのままの自分」「すべての命」「二度と同じ事をくり返さないように」「平和に一步近づくために」でした。

「複数教員で子どもを見取る工夫を進めます」

本校は、六学年各二学級編成で学級担任は12人になります。県・市費(非常勤を含む)の支援担当や管理職・養護を加え、20名程度で学校生活を運営しています。学校経営面から「一人でも多くの教員が、一人の子どもにかかわれるように」をめざしています。そのメリットは、「子どもの良さや課題を複数教員で多面的・多角的に見取り、指導に生かせること」「子どもにとってその時々に合わせて相談しやすい教員を見つけ早期の問題解決につなげるため」「教員同士が連携することで教師のモチベーションや能力を引き延ばすため。1+1=2以上の力で課題解決に対応するため」です。また、今後は「一部の教科を学年で担当を決めて教える」など、指導の均等化、教材研究の効率化にもつなげていくことも考えていきたいと思っています。中学校への進学においても「教科担任制」への順応等効果を発揮すると考えていますので、限られた人員で工夫し、子どもたちに無理させることなく、過ごしやすい環境を整備していきます。どうぞ、ご理解とご支援をよろしく願いいたします。※「保護者様振り返りアンケート」(12/25まで)をコドモンで実施しています。ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。